

女性のでんかん について

■ 監 修 ■

京都大学大学院医学研究科てんかん・運動異常生理学講座 特定教授
池田 昭夫 先生

■ 執筆協力 ■

京都大学大学院医学研究科臨床神経学（神経内科）特定病院助教
小林 勝哉 先生

Q1 月経のときに発作が起こりやすいような気がするのですが

A 月経と発作の関係についてはっきりした統計はありませんが、月経てんかんという言葉があるように、確かに月経期間、特にその前には発作が起こりやすいという方がいます。主治医にそのことを伝えて抗てんかん薬の調整をもらうことも一つの対策です。また、月経期間や排卵日などを把握して体のリズムをつかんでおくことは、日ごろの治療にも将来の妊娠を考える上でも大変役に立つことですので、記録しておくようにしましょう。



Q2 子供に遺伝するのではないかと心配で妊娠に踏み切れません

A てんかんはさまざまな要因が複合して発症する病気なので、通常は遺伝する病気とは考えられません。実際に多くのてんかんをもつ女性の方が健康な赤ちゃんを妊娠・出産しています。心配な場合は遺伝カウンセラーに相談して納得して妊娠をなさってください。

Q3 てんかんをもちながら妊娠・出産するにはどのようなことに注意したらよいでしょうか

A ポイントは「計画的に妊娠すること」です。まずパートナーとよく話し合いましょう。服薬を続けながら発作の少ない安定した生活を過ごすため

にはパートナーの協力がとても重要です。また妊娠・出産だけではなく、出産後の生活や子育てについても十分相談しておきましょう。また、主治医にはできるだけ早く妊娠を希望していることを伝えてください。抗てんかん薬の選択や服用量などを含めて、妊娠する前から治療方法を検討しておく必要があるからです。だいたい妊娠6ヵ月前には薬物調整を終了しておくように計画します(図の①)。てんかんをもたない女性の通常の出産における奇形発生率(奇形の起こる率)は2~5%と言われていますが、抗てんかん薬の影響で妊娠1週目に抗てんかん薬を服用していた場合には4~10%になると言われています。ですから、妊娠初期(12週ごろまで)の赤ちゃんの臓器ができる期間は抗てんかん薬の種類・服薬量については特に注意が必要なのです。妊娠を予定しているときには、妊娠に不都合な発作(大発作、転倒を伴う発作など)を抑えつつ可能な限りの最少用量でかつ単剤で治療することが推奨されています。妊娠する前に主治医の先生や看護師さんとよく相談して、抗てんかん薬の選択・用量などを十分検討するようにしましょう。

Q4 てんかんの薬を飲んでいるとおなかの赤ちゃんに影響するのでしょうか



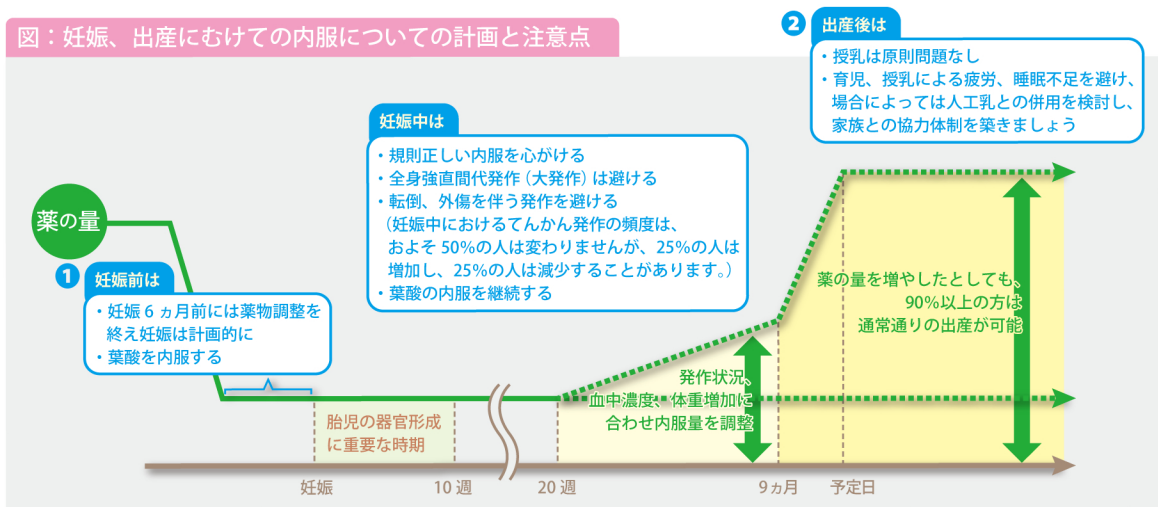
A そのご心配はよくわかります。しかし、抗てんかんの薬を飲むのを止めて発作を起こしてしまうよりも、**きちんと薬を服用し、妊娠に不都合な発作を抑えて赤ちゃんへの悪い影響を避ける必要があります。**またそのような発作は切迫流産や早産につながる場合もありますので妊娠中に発作が起こらないように、**抗てんかん薬を飲んで治療を続けることはとても大切なのです。**何か心配なことがあったら主治医の先生と看護師さんに相談するようにして、自分の判断で薬を飲むのを止めることだけは絶対にしないようにしてください。

Q5 出産後育児ができるか心配です また母乳をあげても大丈夫なのでしょうか

A 出産後は夜間の授乳など、とても疲れるものです。**一人で育てようと思わずに応援してくれる人や体制を作りましょう** (図の②)。夫や親、友人、その他、出産後のサポートをしてくれるところをあらかじめ探しておきましょう。また母乳の中に抗てんかん薬が入って赤ちゃんに良くないのではと心配される方がおられますが、原則的には問題がないとされています。ただ薬の種類や量、ご本人の状態により差がありますので、心配があれば主治医の先生や看護師さんに相談してください。**何よりもあなた自身のてんかんの治療を継続し育児に不都合な発作をコントロールすることが赤ちゃんを心配なく育てることにつながります。**



図：妊娠、出産にむけての内服についての計画と注意点



Dr 池田から女性のみなさんへ

てんかんの発症率に男女差はありません。しかし、てんかんをもつ男性と違い、女性は月経が始まり思春期を過ぎて、恋愛、結婚、妊娠、出産、育児と、大きな変化に対応していかなければならないのです。

てんかんを治療している医師と看護師は、妊娠・出産についてもじっくり時間をかけて対応していきます。

女性のみなさんをお願いしたいことは、妊娠を希望していたら、ぜひ主治医に早めに伝えていただきたいということです。妊娠の希望を聞いた

医師と看護師は、一緒になって相談し妊娠される前から時間をかけて抗てんかん薬の種類や量を調整し、それによる発作の変化を診ていきます。調整には時間が必要なのです。

てんかんだから、妊娠をあきらめなければならないことはありません。どうぞ主治医にあなたの希望を話してください。どのように乗り切っていけばよいか一緒に考えていきましょう。

薬物が体内に蓄積して将来の妊娠に影響するということはありませんので、決して誤解されないようにして下さい。そのような不安を漠然と持っていて、内服を控える若い女性がいらっしゃいますが、妊娠の予定がない時は安心して内服して下さい。

赤ちゃんに重い奇形が出ることがないように、十分に医師と看護師と相談して、計画的に妊娠をすることが重要です。



共和薬品工業株式会社

企画・制作:株式会社パス・コミュニケーションズ